



2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名	株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所 (コード番号：4570)
本店所在地	群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1
代 表 者	代表取締役社長 清 藤 勉
問 合 せ 先	常務取締役業務執行責任者 中 川 正 人 兼事業グループ管理本部長
電 話 番 号	0274-22-2889 (代表)
U R L	https://www.ibl-japan.co.jp

(訂正)「2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の
一部訂正について

2025 年 5 月 14 日に発表いたしました「2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載に、一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、数値データは訂正ございません。なお、訂正箇所には下線 8 箇所を付して表示しております。

記

1. 訂正の理由

「2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」提出後に、記載内容の一部に誤りがあることが判明したため、提出済みの決算短信を訂正いたします。なお、今回の訂正による損益への影響はございません。

2. 訂正の内容

〈決算短信 添付資料 3～4 ページ〉

1. 経営成績等の概況

(4) 今後の見通し

今期更新箇所の下線を付し忘れたものを訂正。

〈訂正前〉

（４）今後の見通し

今後の世界経済は、米国における大幅な政策変更が世界全体の経済情勢に大きな影響を及ぼすことが想定されるとともに、ウクライナや中東地域での紛争の長期化や、中国経済の減速予測等により、先行きは極めて不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループの連結業績につきましては、売上高は米国の新たな通商政策の影響による為替動向や関税の影響が売上高予想の減少要因となり、利益面については物価高による原材料価格の高騰、また、人件費につきましても生活支援や人材確保・定着やモチベーション向上のために、ベースアップや賞与の増額を決定しており、コストの上昇が予想されることで、当社グループを取り巻く環境は厳しい状況になることが見込まれます。しかしながら、主力の ELISA キット、抗体試薬及び体外診断用医薬品原料の国内外の販売が増加することや遺伝子組み換えカイコ事業の製品販売が増加することが予想され、来期以降についても売上高、営業利益及び経常利益並びに親会社株主に帰属する当期純利益の増収・増益を予想しております。

このような状況の中、当社グループのセグメント別の今後の見通しは、次のとおりであります。

① 抗体関連事業

（診断試薬サービス）

当サービスは、競争が激しいグローバル社会において、安定した収益を生み出すために、SNS等を活用した情報戦略を更に強化するとともに、各国で開催される展示会等にも積極的に参加してまいります。また、当社の強みである特異性の高い抗体作成技術を用い、国内外の協業会社との共同研究や技術融合により、有意性の高い抗体を開発し、体外診断用医薬品領域の製品化を進め、販売に注力してまいります。

当事業の研究開発の状況につきましては、下記のとおりです。

○医薬品シーズとしての可能性がある研究開発（下線が今期更新）

- ・ ABCONTEK 社と、ダニ媒介性感染症である SFTS（重症熱性血小板減少症候群）を治療するための抗体医薬品候補「ACT101」の共同開発については、予定していたカニクイザルを使用した非臨床試験や体外診断用医薬品の開発を中止しております。
⇒当社の子会社である株式会社 AI Bio は、SML Biopharm Co., Ltd. と、SFTS ウイルスに対する抗体遺伝子配列を治療薬目的にて使用する独占的实施許諾契約を締結いたしました。（2024 年 6 月 20 日公表の「抗重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルス抗体遺伝子の独占的实施許諾契約締結に関するお知らせ」を参照）
- ・ 国立大学法人徳島大学と胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされる GIST（消化管間質腫瘍）を診断、治療するための抗体医薬品の研究開発について、日本国内における「c-KIT 陽性腫瘍特異的抗体断片」に関する特許を取得（2024 年 4 月 4 日公表の「特許取得に関するお知らせ」参照）し、今後について、提携先と協議を進めております。

⇒継続

○下記の体外診断用医薬品の上市を目指します。（開発中の主なテーマと進捗状況 下線が今期更新）

- ・ シスメックス株式会社との業務提携

本業務提携により、両社の診断薬開発技術の相互利用を進めることで、より独創的で高品質な製品を開発し全世界に向けて提供することを目指しております。本業務提携により当社は、自社の特長ある抗体ライブラリをシスメックスの HISCL をはじめとする測定プラットフォーム向けに最適化し、診断薬原材料として供給することが可能になります。また当社の強みである抗体開発技術を活かしてグローバル市場の様々な診断ニーズに対応した抗体を開発し、シスメックスへの供給を通じて診断薬市場向け事業を拡大します。

⇒（継続）現在、数品目の診断薬原料候補の抗体やたんぱく質の共同開発を行っております。詳細につきましては、守秘義務があるため、開示しておりません。

- ・海外診断薬メーカーとの共同研究

当社が保有する有用な抗体を体外診断用医薬品原料として提供するために評価・検討を行っております。なお、現在、1 品目の体外診断用医薬品用の原料提供が決定しており、今後も数品目の採用を予定しております。（詳細につきましては、守秘義務があるため、開示しておりません。）

- ・学校法人埼玉医科大学と簡便性・迅速性に優れたイムノクロマト法による CTP 測定試薬の開発を共同で行っております。なお、上市の時期は未定です。

⇒継続

- ・グルカゴン[®]は、膵臓のランゲルハンス島の α 細胞から分泌されるホルモンで、血糖調節因子として知られておりますが、ELISA 法による測定は類似ペプチドの交叉による影響を受けやすく、正確な測定が難しいとされてきました。両断端に特異的な 2 抗体を用いた膵グルカゴン特異的測定系の開発により、血中グルカゴン濃度の正確な評価が可能となり、今後、糖尿病の病態や病気を診断するための独立した新しい指標となる可能性が示唆されています。

⇒当抗体を使用した ELISA キットは、株式会社コスミック・コーポレーションが製造販売元、当社が製造元となり、体外診断用医薬品（製品名：Glucagon ELISA「コスミック」II）の製造販売の届出を行い、受理されました（2024 年 8 月 6 日公表の「体外診断用医薬品の製造販売届出 に関するお知らせ」を参照）。また、当抗体は、体外診断用医薬品原料として海外診断薬メーカーへの販売を開始致しました。

- ・赤痢アメーバ症は赤痢アメーバ（*Entamoeba histolytica*）という寄生性の原虫が原因となって引き起こされる病気で、日本国内において、2012 年以降、感染症法に基づく報告数は 900 例を超えてきており、増加傾向にあります。

そこで当社は、簡便な血液検査で赤痢アメーバ感染の有無をチェックできる体外診断用医薬品（製品名：赤痢アメーバ抗体 ELISA-IBL）の製造販売承認を取得し、現在、保険適用に向けて準備をしており、保険適用後、販売を開始致します。

⇒保険申請を第 1 四半期に予定しており、2025 年 12 月までに保険適用される見込みとなっております。

（検査サービス）

当サービスにおいては、人材面や設備面での業務効率を向上させるため、秋田臨床検査センター（秋田県秋田市）を閉鎖し、藤岡研究所（群馬県藤岡市）内に移設いたしました。（2024 年 10 月）また、売上高の向上につきましては、大型案件の獲得を目指し、SNS 等を活用し世界に向けた発信を継続するとともに自社 ELISA キットを使用した受託測定サービスに注力してまいります。

(TG カイコサービス)

当サービスで産生された「ヒト型コラーゲン I」は、美容機器製品の原料としてイタリア企業へ独占販売が開始され、中期的に安定した収益を見込んでおります。

これらの結果、次期の抗体関連事業の通期業績につきましては、売上高は、前年同期に比べ 5.2%増の 1,015,000 千円を見込んでおり、営業利益については、人件費や物価上昇による製造・開発コストが増加するものの、238,000 千円（前年同期比 14.3%増）を見込んでおります。

② ②化粧品関連事業

○国内販売

国内通信販売においては、国内代理店へ運用を任せておりましたが、自社運用を目指し、ユーザーの拡大を図るとともにホームページの再構築をおこない売上高の増加を目指してまいります。

○海外販売

海外市場への販売につきましては、現地代理店やインフルエンサーを活用した販売戦略を強化することにより、販売拡大を目指してまいります。

これらの結果、次期の化粧品関連事業の通期業績につきましては、売上高は、前年同期に比べ 93.8%増の 10,000 千円、営業利益は 2,000 千円（前年 1,164 千円の営業利益）を目指してまいります。

以上により、当社グループ全体の連結通期業績につきましては、売上高は、前年同期に比べ 5.7%増の 1,025,000 千円、営業利益は、14.6%増の 240,000 千円、経常利益は、14.4%増の 240,000 千円、親会社株主に帰属する当期純利益は、6.4%増の 265,000 千円を見込んでおります。

〈訂正後〉

（４）今後の見通し

今後の世界経済は、米国における大幅な政策変更が世界全体の経済情勢に大きな影響を及ぼすことが想定されるとともに、ウクライナや中東地域での紛争の長期化や、中国経済の減速予測等により、先行きは極めて不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループの連結業績につきましては、売上高は米国の新たな通商政策の影響による為替動向や関税の影響が売上高予想の減少要因となり、利益面については物価高による原材料価格の高騰、また、人件費につきましても生活支援や人材確保・定着やモチベーション向上のために、ベースアップや賞与の増額を決定しており、コストの上昇が予想されることで、当社グループを取り巻く環境は厳しい状況になることが見込まれます。しかしながら、主力の ELISA キット、抗体試薬及び体外診断用医薬品原料の国内外の販売が増加することや遺伝子組み換えカイコ事業の製品販売が増加することが予想され、来期以降についても売上高、営業利益及び経常利益並びに親会社株主に帰属する当期純利益の増収・増益を予想しております。

このような状況の中、当社グループのセグメント別の今後の見通しは、次のとおりであります。

① 抗体関連事業

（診断試薬サービス）

当サービスは、競争が激しいグローバル社会において、安定した収益を生み出すために、SNS等を活用した情報戦略を更に強化するとともに、各国で開催される展示会等にも積極的に参加してまいります。また、当社の強みである特異性の高い抗体作成技術を用い、国内外の協業会社との共同研究や技術融合により、有意性の高い抗体を開発し、体外診断用医薬品領域の製品化を進め、販売に注力してまいります。

当事業の研究開発の状況につきましては、下記のとおりです。

○医薬品シーズとしての可能性がある研究開発（下線が今期更新）

- ・ ABCONTEK 社と、ダニ媒介性感染症である SFTS（重症熱性血小板減少症候群）を治療するための抗体医薬品候補「ACT101」の共同開発については、予定していたカニクイザルを使用した非臨床試験や体外診断用医薬品の開発を中止しております。

⇒当社の子会社である株式会社 AI Bio は、SML Biopharm Co., Ltd. と、SFTS ウイルスに対する抗体遺伝子配列を治療薬目的にて使用する独占的实施許諾契約を締結いたしました。（2024 年 6 月 20 日公表の「抗重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルス抗体遺伝子の独占的实施許諾契約締結に関するお知らせ」を参照）

- ・ 国立大学法人徳島大学と胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされる GIST（消化管間質腫瘍）を診断、治療するための抗体医薬品の研究開発について、日本国内における「c-KIT 陽性腫瘍特異的抗体断片」に関する特許を取得（2024 年 4 月 4 日公表の「特許取得に関するお知らせ」参照）し、今後について、提携先と協議を進めております。

⇒継続

○下記の体外診断用医薬品の上市を目指します。（開発中の主なテーマと進捗状況 下線が今期更新）

- ・ シスメックス株式会社との業務提携

本業務提携により、両社の診断薬開発技術の相互利用を進めることで、より独創的で高品質な製品を開発し全世界に向けて提供することを目指しております。本業務提携により当社は、自社の特長ある抗体ライブラリをシスメックスの HISCL をはじめとする測定プラットフォーム向けに最適化し、診断薬原材料として供給することが可能になります。また当社の強みである抗体開発技術を活かしてグローバル市場の様々な診断ニーズに対応した抗体を開発し、シスメックスへの供給を通じて診断薬市場向け事業を拡大します。

⇒(継続) 現在、数品目の診断薬原料候補の抗体やたんぱく質の共同開発を行っております。詳細につきましては、守秘義務があるため、開示しておりません。

- ・海外診断薬メーカーとの共同研究

当社が保有する有用な抗体を体外診断用医薬品原料として提供するために評価・検討を行っております。なお、現在、1品目の体外診断用医薬品用の原料提供が決定しており、今後も数品目の採用を予定しております。(詳細につきましては、守秘義務があるため、開示しておりません。)

- ・学校法人埼玉医科大学と簡便性・迅速性に優れたイムノクロマト法による CTP 測定試薬の開発を共同で行っております。なお、上市の時期は未定です。

⇒継続

- ・グルカゴンは、膵臓のランゲルハンス島の α 細胞から分泌されるホルモンで、血糖調節因子として知られておりますが、ELISA 法による測定は類似ペプチドの交叉による影響を受けやすく、正確な測定が難しいとされてきました。両断端に特異的な 2 抗体を用いた膵グルカゴン特異的測定系の開発により、血中グルカゴン濃度の正確な評価が可能となり、今後、糖尿病の病態や病気を診断するための独立した新しい指標となる可能性が示唆されています。

⇒当抗体を使用した ELISA キットは、株式会社コスミック・コーポレーションが製造販売元、当社が製造元となり、体外診断用医薬品(製品名: Glucagon ELISA「コスミック」II)の製造販売の届出を行い、受理されました(2024 年 8 月 6 日公表の「体外診断用医薬品の製造販売届出 に関するお知らせ」を参照)。また、当抗体は、体外診断用医薬品原料として海外診断薬メーカーへの販売を開始致しました。

- ・赤痢アメーバ症は赤痢アメーバ(Entamoeba histolytica)という寄生性の原虫が原因となって引き起こされる病気で、日本国内において、2012 年以降、感染症法に基づく報告数は 900 例を超えてきており、増加傾向にあります。

そこで当社は、簡便な血液検査で赤痢アメーバ感染の有無をチェックできる体外診断用医薬品(製品名: 赤痢アメーバ抗体 ELISA-IBL)の製造販売承認を取得し、現在、保険適用に向けて準備をしており、保険適用後、販売を開始致します。

⇒保険申請を第 1 四半期に予定しており、2025 年 12 月までに保険適用される見込みとなっております。

(検査サービス)

当サービスにおいては、人材面や設備面での業務効率を向上させるため、秋田臨床検査センター(秋田県秋田市)を閉鎖し、藤岡研究所(群馬県藤岡市)内に移設いたしました。(2024 年 10 月) また、売上高の向上につきましては、大型案件の獲得を目指し、SNS 等を活用し世界に向けた発信を継続するとともに自社 ELISA キットを使用した受託測定サービスに注力してまいります。

(TG カイコサービス)

当サービスで産生された「ヒト型コラーゲン I」は、美容機器製品の原料としてイタリア企業へ独占販売が開始され、中期的に安定した収益を見込んでおります。

これらの結果、次期の抗体関連事業の通期業績につきましては、売上高は、前年同期に比べ 5.2%増の 1,015,000 千円を見込んでおり、営業利益については、人件費や物価上昇による製造・開発コストが増加するものの、238,000 千円（前年同期比 14.3%増）を見込んでおります。

② ②化粧品関連事業

○国内販売

国内通信販売においては、国内代理店へ運用を任せておりましたが、自社運用を目指し、ユーザーの拡大を図るとともにホームページの再構築をおこない売上高の増加を目指してまいります。

○海外販売

海外市場への販売につきましては、現地代理店やインフルエンサーを活用した販売戦略を強化することにより、販売拡大を目指してまいります。

これらの結果、次期の化粧品関連事業の通期業績につきましては、売上高は、前年同期に比べ 93.8%増の 10,000 千円、営業利益は 2,000 千円（前年 1,164 千円の営業利益）を目指してまいります。

以上により、当社グループ全体の連結通期業績につきましては、売上高は、前年同期に比べ 5.7%増の 1,025,000 千円、営業利益は、14.6%増の 240,000 千円、経常利益は、14.4%増の 240,000 千円、親会社株主に帰属する当期純利益は、6.4%増の 265,000 千円を見込んでおります。

以 上